

各展示施設の説明・案内・質疑応答

■ 各展示施設の説明

1 施設概要

札幌市民防災センターは、地震体験コーナーや消火体験コーナーなどを備えた施設であり、各種災害の模擬体験を通じ、防火・防災に関する知識や災害時の行動を学ぶことができる。

(1) 構成

1階と2階には、受付、インフォメーションの他、体験及び展示コーナーなど、『見て、触れて、体験し、学ぼう』をコンセプトにしたコーナーがある。

ア 受付・インフォメーション（1階）

- ① 受付・ガイダンス
- ② インフォメーションコーナー（防火・防災コンシェルジュ）

イ 体験コーナー（1階）

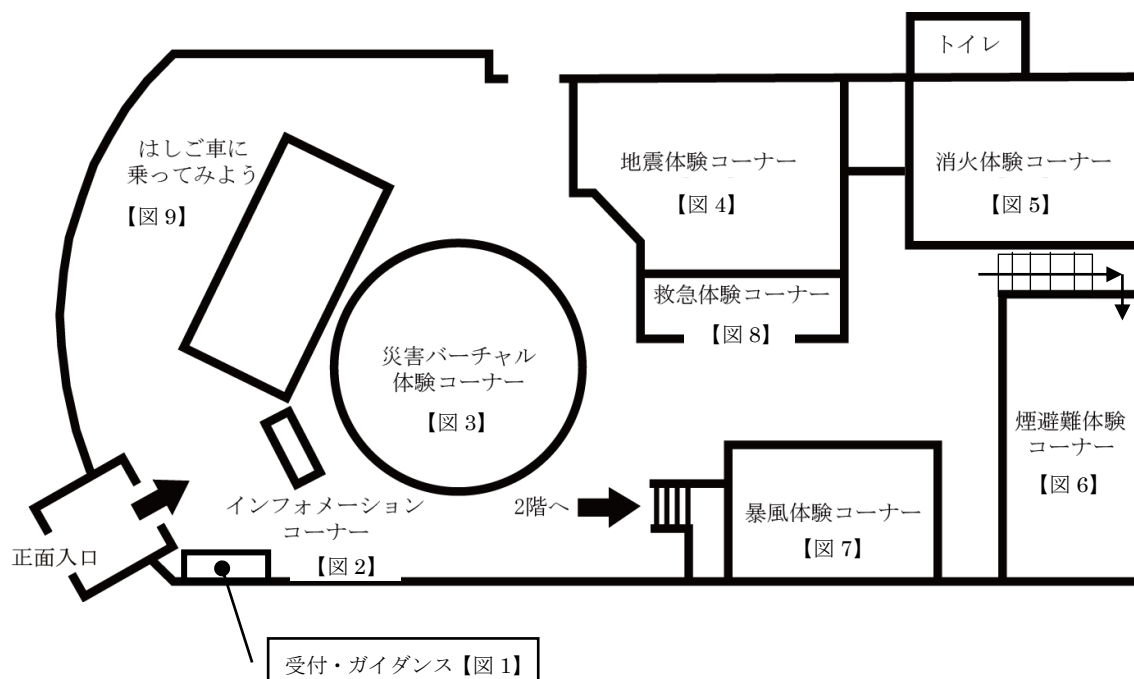
- ① 災害バーチャル体験コーナー
- ② 地震体験コーナー
- ③ 消火体験コーナー
- ④ 煙避難体験コーナー
- ⑤ 暴風体験コーナー
- ⑥ 救急体験コーナー
- ⑦ はしご車に乗ってみよう

ウ 展示コーナー（2階）

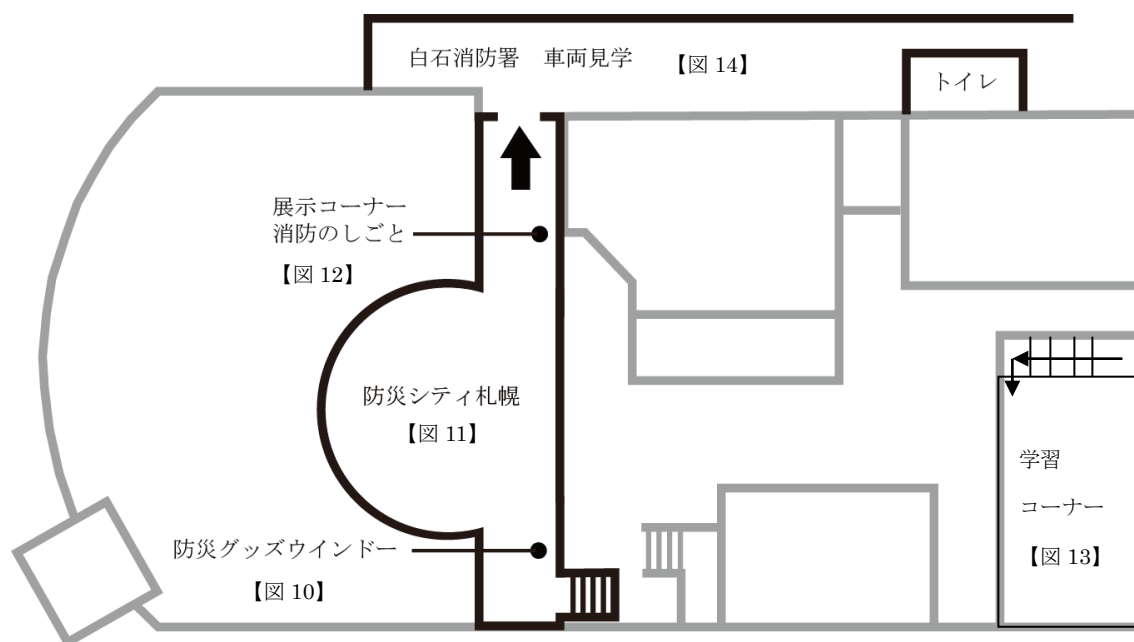
- ① 防災グッズウィンドー
- ② 防災シティ札幌
- ③ 消防のしごと
- ④ 学習コーナー（煙避難体験コーナー2階）
- ⑤ その他（白石消防署の車両見学）

(2) 配置

1 階 平 面 図



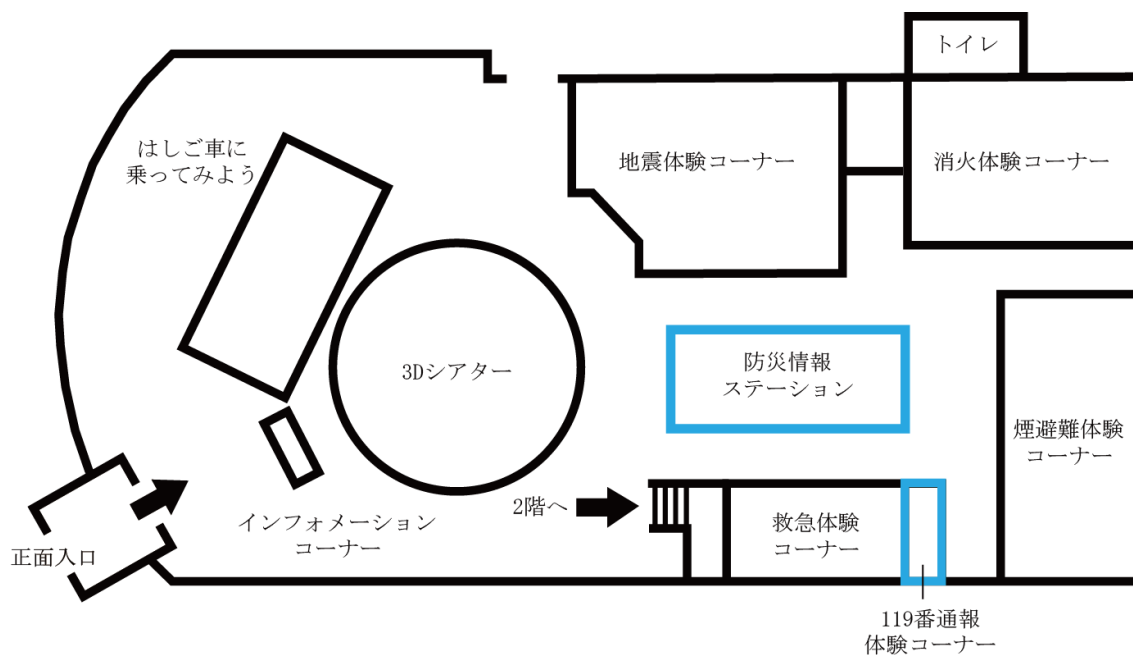
2 階 平 面 図



(3) 変遷

2003 年(平成 15 年)3 月 14 日にオープンし、2013 年(平成 25 年)3 月 11 日には、1 階部分のレイアウトの変更や新コーナーの新設、既存コーナーの一部更新を行い、リニューアルオープンした。

① オープン (2003 年 (平成 15 年) 3 月 14 日)



: リニューアル時に廃止となったコーナー

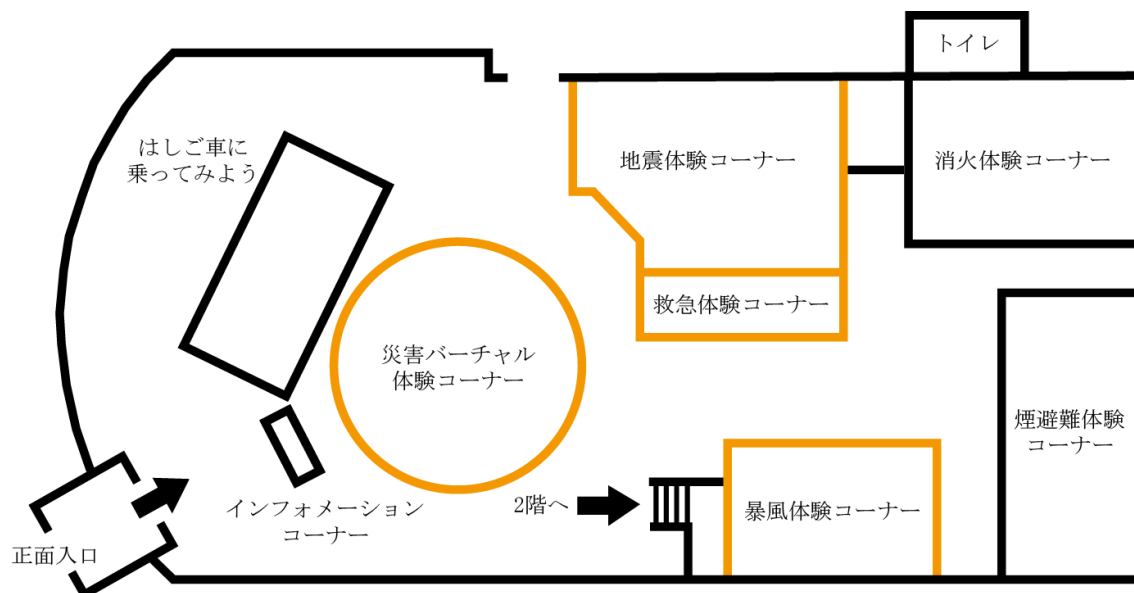
・ 防災情報ステーション



・ 119 番通報体験コーナー



② リニューアルオープン（2013 年（平成 25 年）3 月 11 日）



: リニューアル時に新設または一部更新されたコーナー

・ 救急体験コーナー
(旧)



(新)



【変更】コーナーの移動、モニターの増設、AED の設置

・ 災害バーチャル体験コーナー
(旧)



(新)



【変更】 内容変更、送風機の増設、照明の変更、操作方法の変更（無線）

・ 地震体験コーナー
(旧)



(新)

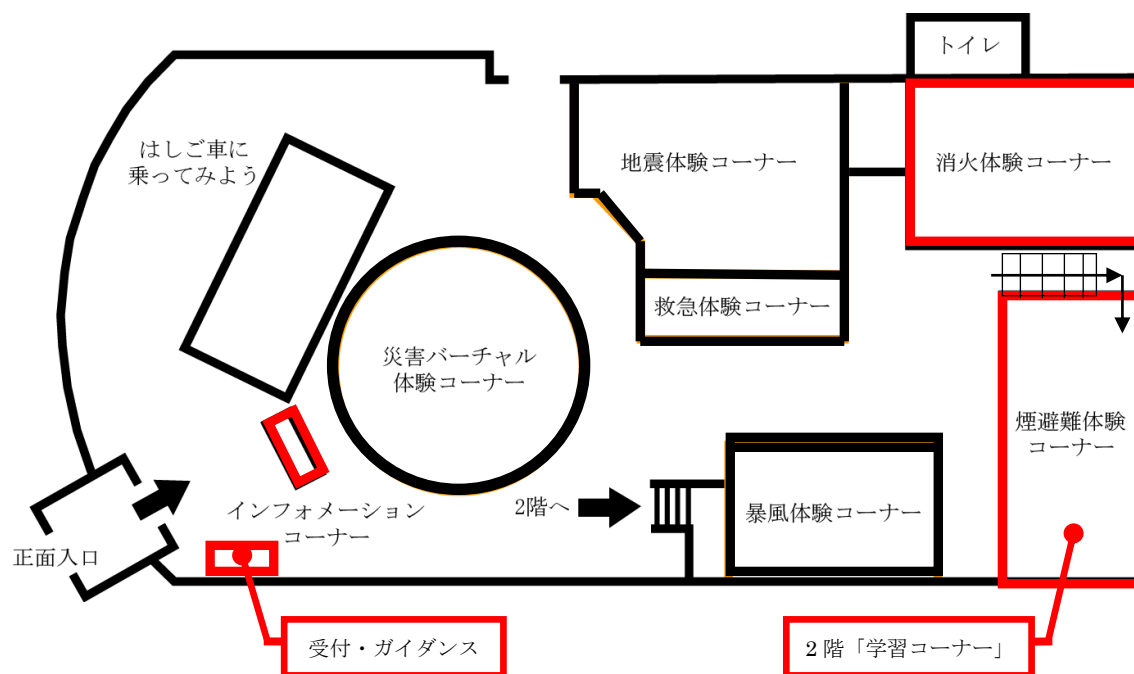


【変更】 震度変更、内装の変更、プロジェクターの設置、モニター増設

・ 暴風体験コーナー（新設）



③ リニューアルオープン（2023 年（令和 5 年）3 月 20 日）



: リニューアル時に新設または一部更新されたコーナー

・インフォメーションコーナー
(変更)



受付・ガイダンス
(新)



【変更】「受付・ガイダンス」システムの導入により自動受付となった。
「インフォメーションコーナー」については、来館時の問合せ対応や
防火・防災コンシェルジュ（相談コーナー）等として運用。

・消火体験コーナー
(旧)



(新)



【変更】内装、機器の変更及び体験方法の変更

・煙避難体験コーナー
(旧)



(新)



【変更】内装、機器の変更及び体験方法の変更

・学習コーナー (新設)



【新設】煙避難体験コーナーの2階に新設

2 受付・インフォメーション

(1) 受付・ガイダンス

ア 来館者自身が簡単なタッチパネル操作（来館人数、年齢、国籍、来館数）で受付をすることができる。

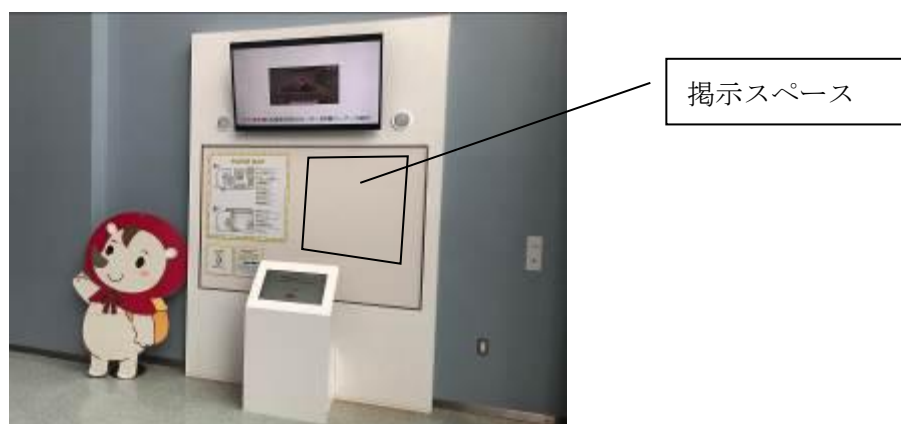
イ 「ガイダンス映像」スタートボタンを押すと、上部のモニターで各体験コーナーの概要を映像で見ることができる。

ウ 「多言語対応アプリ」をダウンロードすると解説パネル（消火体験コーナー、煙避難体験コーナー、学習コーナーに設置）にスマホをかざすと、対応言語により内容を読み上げることができる。

（対応言語；英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語）

エ 掲示スペースを活用して、来館者に情報提供することができる。

【図 1】



【ガイダンス映像スタートボタン】



【多言語対応アプリQRコード】

(2) インフォメーションコーナー（防火・防災コンシェルジュ）

来館者への情報提供、来館者からの問い合わせを受けることができる。

また、「防火・防災コンシェルジュ（相談コーナー）」として、地域や団体等が防火・防災・減災活動を行う上でのサポートや助言等を受けることができる。

【図 2】



3 体験コーナー

(1) 災害バーチャル体験コーナー

津波災害、土砂災害、都市型水害の3つの映像コンテンツを体験することができる。

大画面による3D映像と光や風によるリアルな演出をとおして、災害の本当の怖さを知り、注意すべきことは何かを学ぶことができる。

【図3】



(2) 地震体験コーナー

東日本大震災や高層の建物で起きる長周期地震動のほか、札幌想定地震や子ども向け地震などのオリジナルの地震体験ができる。

窓の外には、発災地の風景が広がり、仮想番組が放映されているテレビやスマートフォンからは、緊急地震速報が流れる。

地震の発生とともに、窓の外の風景が変化し、停電状態になるなど、緊張感のある演出により災害の恐怖を実感することができる。

地震体験終了後には、テレビから、地震の特徴や対策方法などの説明が流れ、防災について学ぶことができる。

【図 4】



(3) 消火体験コーナー

プロジェクションマッピングで映し出された映像で、消火器の取扱要領を学び、模擬消火器を用いて消火体験を行うことができる。

【図 5】



(4) 煙避難体験コーナー

火災時の煙からの避難方法を映像で学び、実際に避難の体験をすることができる。また、体験中は各センサーにより避難状況を探点し、体験後は「振り返りモニター画面」で避難行動を確認することができる。

【図 6】



(5) 暴風体験コーナー

3D映像と風を組み合わせることで、災害現場にいるかのような臨場感を味わいながら、暴風災害の危険性や対処方法を学ぶことができる。

【図 7】



(6) 救急体験コーナー

訓練用の人形を使って、心肺蘇生を体験することができる。

モニターに流れる映像により、胸骨圧迫（心臓マッサージ）や AED の使い方を学ぶことができる。

【図 8】



(7) はしご車に乗ってみよう

実物のはしご車に乗ることができる。運転席では、サイレンを鳴らしたり、無線交信を聞いたりすることができ、後方のはしご操作部では、はしご操作レバーを触ることができる。

また、はしご車の横では、消防の活動服を着ることができ、ヘルメットをかぶることができる。

【図 9】

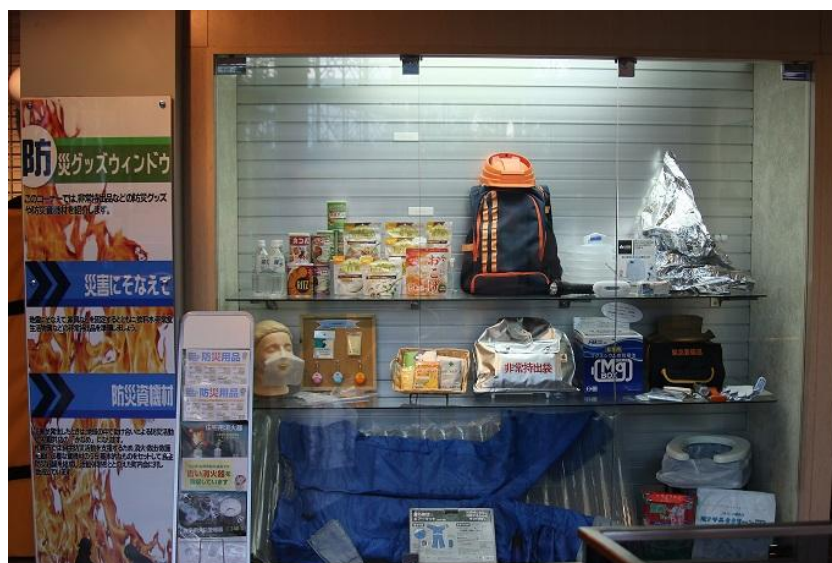


4 展示コーナー

(1) 防災グッズウィンドー

災害時の非常持ち出し品や自主防災資機材を紹介している。

【図 10】



(2) 防災シティ札幌

模型のヘリコプターを操縦することができる。

札幌市の防火・防災に関する情報を調べることができる。

【図 1 1】



- (3) 消防のしごと
消防のいろいろな仕事や活動服・資機材などを紹介している。

【図 1 2】



(4) 学習コーナー

「火災から身を守る」、「風水害から身を守る」、「地震発生！まちはどうなる？」、「地震が起きたら」、「災害に備える」等の各パネル資料及び段ボールベッド等の展示により災害時の対応について学ぶことができる。

【図 1 3】



(5) その他（白石消防署の車両見学）

2階の消防署見学ゾーンから白石消防署の車庫内に待機している消防車両を見学することができる。

【図 1 4】

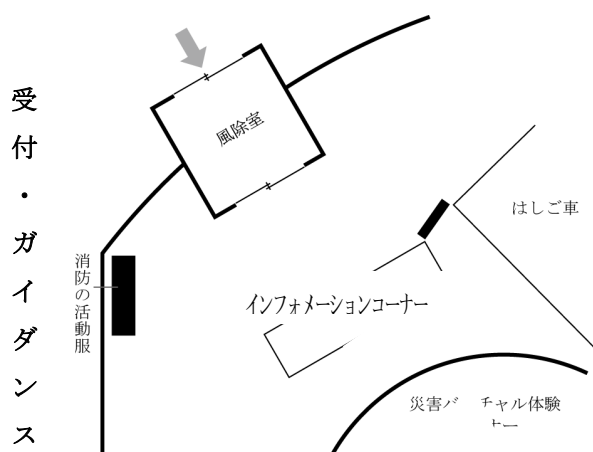


■ 各展示施設の案内

コーナーの特色に合わせた案内が必要となる。

1 受付・ガイダンス

(1) レイアウト



(2) 案内手順

来館者が最初に訪れる場所であり、来館者自身が、タッチパネル操作で簡単なアンケートを入力し、受付を完了させる。

(3) 注意事項

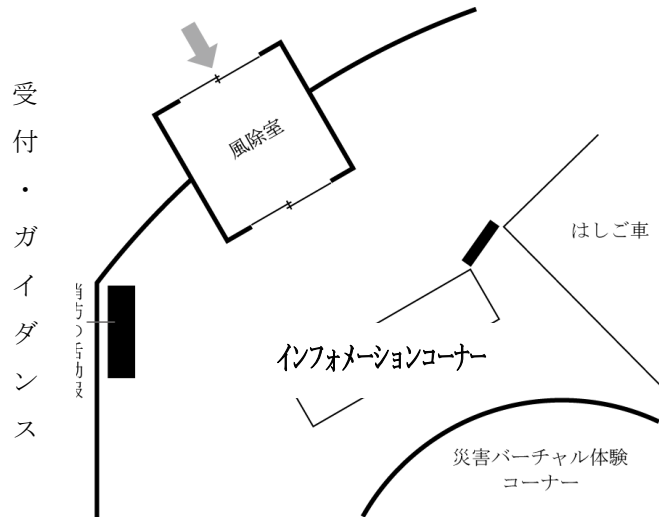
来館者が入力終了後、「入力ありがとうございました」の画面でTOPをタッチしない場合、5分間経過しないとトップ画面（通常時待機画面）に戻らないため、次の来館者が戸惑うので注意が必要である。

【受付システム入力区分】

入力言語	日本語	英語	韓国語	中国 (簡)	中国 (繁)		
個人年齢	未就学	小学生	中学生	高校生	大人 19 ～65 歳	高齢者	
個人国籍	日	米	韓	中	越	露	その他
個人来館数	1 回	2 回	3 回	4 回以上			
団体国籍	日	米	韓	中	越	露	その他

2 インフォメーションコーナー（防火・防災コンシェルジュ）

(1) レイアウト



(2) 業務内容

電話予約の受付、各種の問い合わせ、来館者への情報提供、防火・防災に関する相談等を受け付ける。

ア 必要に応じて受付・ガイダンスの操作等の案内を行う。

イ 必要に応じて来館の挨拶、施設の目的・内容を伝える。

(例)

「札幌市民防災センターは、いろいろな災害の模擬体験をしながら、防火・防災に関する知識や、災害が発生したときの行動を学んでいただくための施設です。」

ウ 情報管理システムにて、団体の予約管理（日程調整、団体名及び人数の記録等）を行う。

エ 必要に応じて館内のルール（飲食禁止・喫煙禁止など）を来館者に伝える。

(例)「館内は飴・ガムを含め、飲食禁止・禁煙でございます。」

オ 来館者に対してタブレットを活用し、気象情報等の情報提供を行う。

カ 「防火・防災コンシェルジュ（相談コーナー）」として、地域や団体等が防火・防災・減災活動を行う上でのサポートや助言を行う。

(3) 注意事項

センター業務の他、消防の業務に関する問い合わせがあった場合は、消防局総務部総務課（TEL：011-215-2010）を案内する。

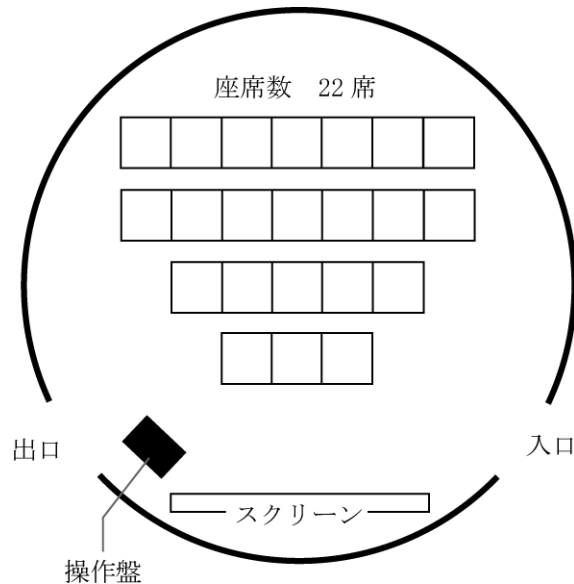
【情報管理システム：集計区分】

・団体

予約時間	入退館時間
団体情報	団体名（予約名）／担当者の名前 連絡先／住所／人数
年 齢（6 区分）	乳幼児／小学生／中学生／高校生 大人（19 歳～65 歳）／高齢者
国 籍（4 区分）	中国／韓国／米国／他
障 が い（5 区分）	知的障がい／歩行障がい 聴力障がい／視覚障がい／他
そ の 他	交通機関／体験内容／班数

3 災害バーチャル体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

1時間ごとの自動1上映とし、1上映を「津波災害」「土砂災害」「都市型水害」の順番で上映する。

混雑時など、1時間ごとの自動2上映に設定することも可能である。

- ① 入室する際、3Dメガネを受け取る。
- ② 椅子に着席後、3Dメガネを着用する。
- ③ 上映開始
- ④ 上映終了
- ⑤ 出口付近で3Dメガネを返却する。

(3) 案内手順

- ① 上映開始の案内を行う。(5分前)
- ② 来館者が入室する際、入口付近で3Dメガネを配る。
- (例)
- 「3Dメガネをお受け取りください。中は暗く段差がございます。足元には十分お気をつけください。」
- ③ 来館者の着席を確認し、入口と出口のドアを閉める。
- ④ 上映内容を伝える。

(例)

「災害バーチャル体験コーナーでは専用のメガネをかけ、立体映像を

ご覧いただけます。津波災害、土砂災害、都市型水害に関する映像 3 本立てで、上映時間は約 25 分間です。」

⑤ 上映開始（自動上映）

⑥ 上映終了（自動終了）

⑦ ドアを開け、出口付近で来館者から 3D メガネを回収する。

（例）

「お忘れ物がないよう、また、足元にお気をつけてご退出ください。」

⑧ 回収した 3D メガネは汚れを落とし、保管場所に戻す。

⑨ 来館者の退室後は、必ず忘れ物の有無を確認する。

(4) 上映コンテンツ

① 津波災害（7 分 59 秒）

② 土砂災害（6 分 12 秒）

③ 都市型水害（7 分 47 秒）

※ ①～③を繋げて上映し、①→②→③の順番とする。合計上映時間は 21 分 58 秒であるが、1 プログラム 25 分とする。

(5) 上映スケジュール

① 1 時間に 1 上映

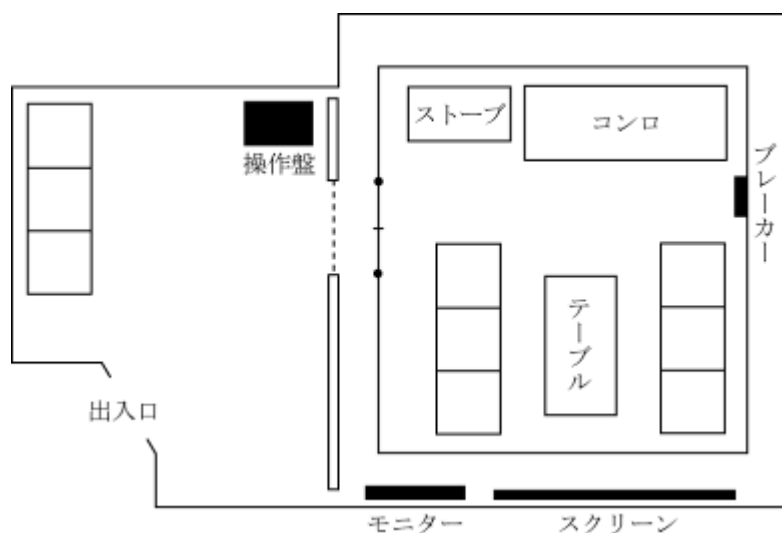
1 回目	10 : 00～10 : 25	5 回目	14 : 00～14 : 25
2 回目	11 : 00～11 : 25	6 回目	15 : 00～15 : 25
3 回目	12 : 00～12 : 25	7 回目	16 : 00～16 : 25
4 回目	13 : 00～13 : 25		

② 1 時間に 2 上映の場合

1 回目	10 : 00～10 : 25	8 回目	13 : 30～13 : 55
2 回目	10 : 30～10 : 55	9 回目	14 : 00～14 : 25
3 回目	11 : 00～11 : 25	10 回目	14 : 30～14 : 55
4 回目	11 : 30～11 : 55	11 回目	15 : 00～15 : 25
5 回目	12 : 00～12 : 25	12 回目	15 : 30～15 : 55
6 回目	12 : 30～12 : 55	13 回目	16 : 00～16 : 25
7 回目	13 : 00～13 : 25		

4 地震体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

- ① 8種類（震度3・5・6・7）の震度の中から選択する。

震度3	子ども地震	震度7	関東地震
震度5	長周期地震動	震度7	兵庫県南部地震
震度5	北海道南西沖地震	震度7	東北地方太平洋沖地震
震度6	スマトラ島沖地震	震度7	札幌想定地震

- ② 起震台の椅子に着席する。
 ③ 起震台が上昇する。
 ④ 体験開始
 ⑤ 揺れている間は、クッションで身（頭部）を守る。
 ⑥ 揺れがおさまった後、火災対策用機器のスイッチを切る。
 ⑦ 体験終了
 ⑧ 起震台が開始時の位置に降下する。

【火災対策用機器】

- ・ ストープ、ガスコンロ



- ・ ブレーカー



※火災対策結果表示

火災対策の対応ができている場合は緑色のランプが点灯する。

(3) 案内手順

- ① 震度（地震）を確認し、体験方法を伝える。

（例）

「地震の揺れを感じたら、第一に自分の身を守ってください。
火の始末は揺れがおさまってから、火の元の確認をしましょう。」

- ② 来館者の着席を確認し、起震台の柵の施錠を行う。
③ 操作パネルの地震選択画面で地震を選択し、開始ボタンを押す。

（例）

「体験中に立ち上がると転倒する恐れがありますので、決して立ち上がらないようにお願いします。」

- ④ 体験開始
⑤ 体験終了
⑥ 体験後、体験に即した防災の心得を伝える。
⑦ 柵を解錠し、起震台から来館者を退出させる。

(4) 注意事項

起震台周辺は、安全装置としてセンサーが設置されている。

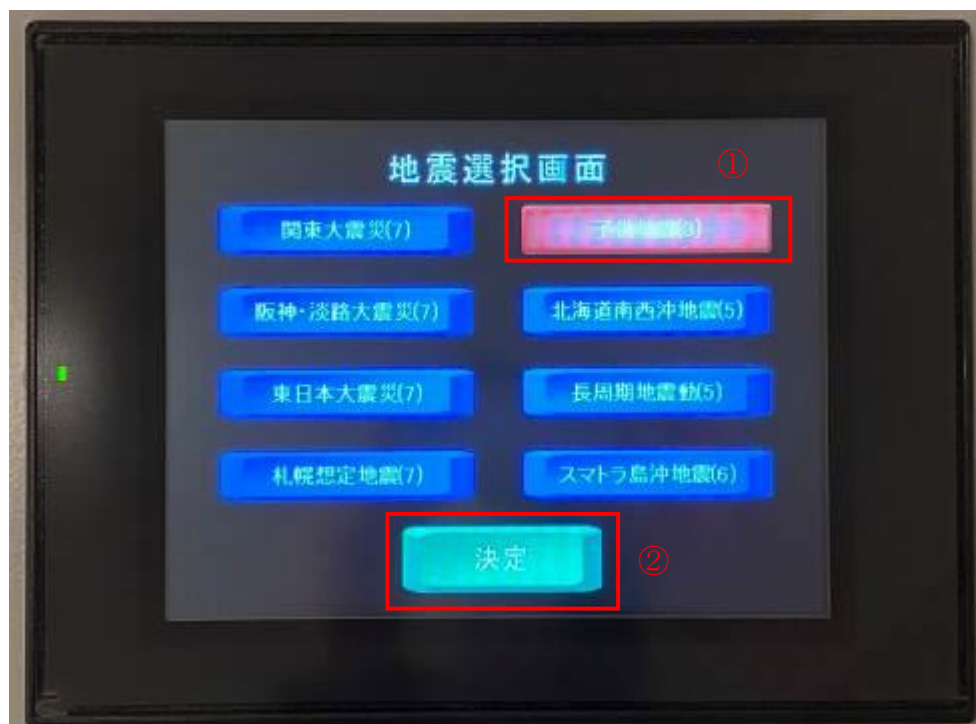
柵が施錠されていない場合やチェーンを超えて起震台に近づいた場合にセンサーが感知し、緊急停止する。



※施錠場所 柵 2 か所、チェーン 1 か所 計 3 か所

【操作方法】

操作盤（手順：① 地震選択 → ②決定 → ③開始）



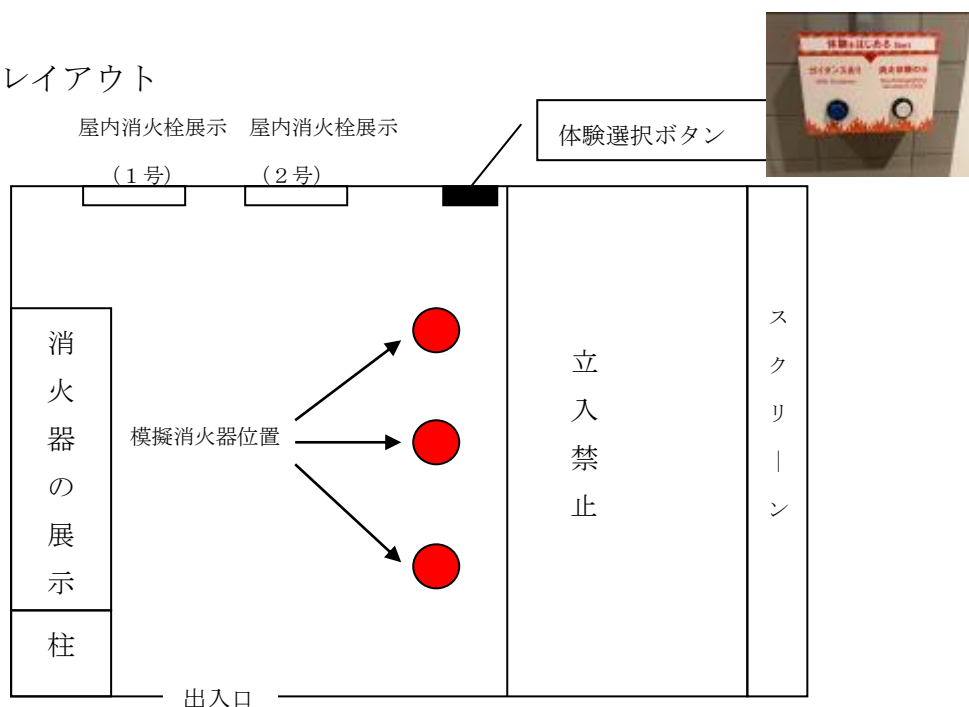
※演出効果を変更する場合は、開始ボタンを押す前に設定を行う。

【各地震概要】

地震	震度	震度表示	発生日時	起震時間	体験時間
子ども地震	3.2	3	20XX 年 夏	30 秒	95 秒
長周期地震動	4.8 (新宿)	5	2011/3/11 14 時 46 分	30 秒	95 秒
北海道南西沖地震	5.4 (推定)	5	1993/7/12 22 時 17 分	70 秒	135 秒
スマトラ島沖地震	6 (データ無)	6	2009/9/30 10 時 16 分	60 秒	125 秒
関東地震 (関東大震災)	6.5 (推定)	7	1923/9/1 11 時 58 分	60 秒	120 秒
兵庫県南部地震 (阪神淡路大震災)	6.4 (JR 鷹取)	7	1995/1/17 5 時 46 分	25 秒	90 秒
東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)	6.6 (宮城)	7	2011/3/11 14 時 46 分	120 秒	185 秒
札幌想定地震	6.5 (新潟県 川口町)	7	20XX 年 冬	60 秒	125 秒

5 消火体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

1 度に 3 人まで体験が可能

- ① 体験者が自ら「ガイダンスあり」又は「消火体験のみ」を選択し、壁面に設置の体験選択ボタン（「青」又は「白」）を押す。
- ② 「ガイダンスあり」（青ボタン）の場合、消火器の使い方説明のガイダンス映像がスクリーンに映し出され、終了後に消火体験シーンに移行し、模擬消火器の操作が可能になり消火体験が開始される。
- ③ 「消火体験のみ」（白ボタン）の場合、ガイダンス映像がなく、消火体験シーンまでスキップし、模擬消火器の操作が可能になり消火体験が開始される。
- ④ 消火体験シーンに移行後、順番に映し出される「ストーブ」「こんろ」「コンセント」火災の映像を模擬消火器で制限時間以内（50 秒間）に消火する。
- ⑤ センサーが消火の成功または失敗を判断する。
- ⑥ 体験者が自ら模擬消火器を元の状態に戻して体験終了。

(3) 案内手順

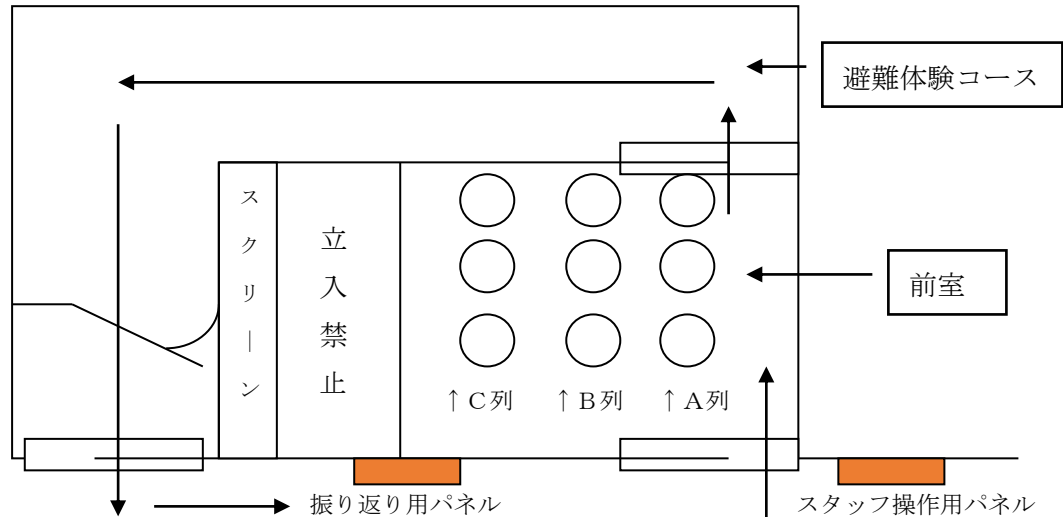
来館者（体験者）が自ら自由に体験できる。

(4) 注意事項

- ① 来館者（体験者）が「体験選択ボタン」を探し出せない場合があるため、必要に応じて説明する。
- ② スクリーン手前のフローリング部分から先には立ち入らないように注意を促す。

6 煙避難体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

1 度に 9 人まで体験が可能

- ① 前室に着席してスクリーンに映し出される映像により、「煙の恐ろしさと避難方法」について学習する。(約 4 分 30 秒)
- ② A 列、B 列、C 列のチーム (各列 3 人まで) に分かれて、A 列から順番に避難体験を実施する。
- ③ 避難体験コース内では、姿勢を低く保ち、片方の手で壁を触りながら避難する。
- ④ 誘導灯の矢印に従い、開けたドアは必ず閉めて避難する。
- ⑤ 全員が避難終了後、チームごとの避難体験結果 (総合評価、体験時映像等) を確認し、煙からの避難要領について学習する。
- ⑥ 体験終了

(3) 案内手順

- ① 来館者 (体験者) を前室の椅子に着席させる。
- ② 着席した位置により A 列、B 列、C 列のチーム分けを行う。
- ③ 体験の流れについて説明する。
- ④ 「スタッフ操作パネル」の「1. ガイダンス映像」の再生をタッチして、ガイダンス映像を再生開始する。(約 4 分 30 秒)
- ⑦ ガイダンス映像終了後、A 列に避難開始の指示を行う。

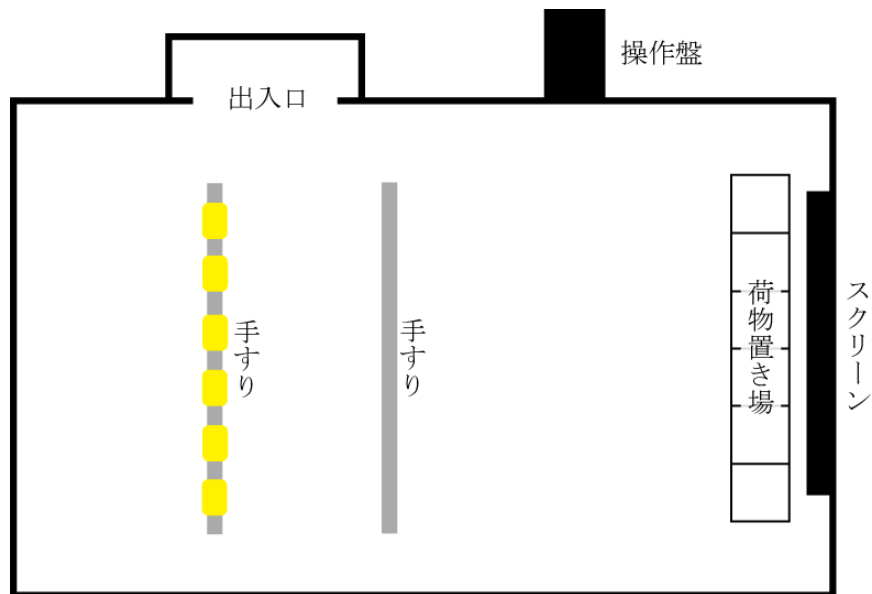
- ⑧ 「スタッフ操作パネル」の「2.チームに分かれて体験を開始／終了」のA列体験開始をタッチする。
 - ⑨ A列が避難体験を行っている。
 - ⑩ A列の体験者が避難終了し、出口から出たら「スタッフ操作パネル」の「2.チームに分かれて体験を開始／終了」のA列体験終了をタッチする。
 - ⑪ 次にB列に避難を開始の指示を行う。
 - ⑫ B列、C列それぞれ⑦～⑨を実施し全員が避難体験を終了したら、「振り返り用パネル」の前に集合させる。
 - ⑬ 「振り返り用パネル」を見ながら各列それぞれの避難体験の結果を振り返り学習してもらう。(次頁：「採点基準」参照)
 - ・ 「身を低くして避難できましたか？」
 - ・ 「壁に沿って行動できましたか？」
 - ・ 「扉は閉めましたか？」
 - ⑭ 体験終了
 - ⑮ 「スタッフ操作パネル」の「3.体験を終了してリセット」のリセットをタッチして初期状態に戻す
- (4) 注意事項
- 前室のスクリーン前のステージ部分には、プロジェクターが設置されていることから、体験者が立ち入らないように注意を促すこと。



プロジェクターの設置場所

7 暴風体験コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

- ① 3種類（10m/s・20m/s・30m/s）の風速の中から選択する。
- ② 入室する際、3Dメガネを受け取る。
- ③ 荷物置き場に持ち物を置く。
- ④ 3Dメガネを着用し、手すりに掴まる。
- ⑤ 体験開始
- ⑥ 体験終了
- ⑦ 出入口付近で3Dメガネを返却する。

(3) 案内手順

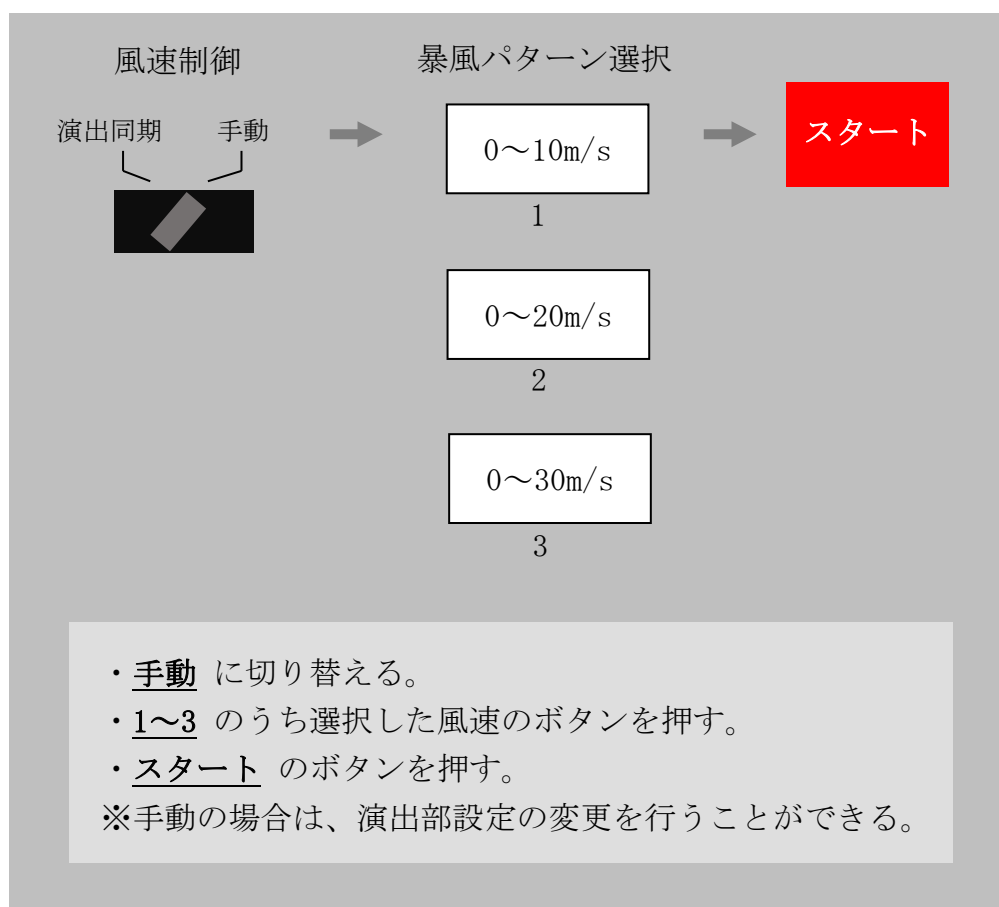
- ① 来館者が入室する際、出入口付近で3Dメガネを配る。
(例)
「正面のスクリーンには、暴風の映像と解説が3D映像で流れます。
体験は、風速10m、20m、30mの中からお選びいただけます。」
- ② 来館者が手すりに掴まったことを確認し、ドアを閉める。
- ③ 体験開始
- ④ 体験終了
- ⑤ ドアを開け、体験に即した防災の心得を伝える。

- ⑥ 出入口付近で３Ｄメガネを回収する。
- ⑦ 回収した３Ｄメガネは、汚れを落とし、保管場所に戻す。
- ⑧ 来館者の退室後は、忘れ物の有無を確認する。

(4) 注意事項

- ① 身につけている装飾品等は、強風により外れてしまう可能性がある。
- ② 体験中は、小窓から中の様子を注視する。





The diagram illustrates the layout of the training room. At the top center, there is a label '映像選択ボタン' (Image Selection Button) with a line pointing to a small rectangular button on the top wall. Below this, the room is divided into two main sections. On the left, there is a 'モニター' (Monitor) and a '訓練用人体形 (成人)' (Training Manikin - Adult) standing in front of a gray rectangular backdrop. On the right, there is another 'モニター' (Monitor) and a '訓練用人体形 (小児)' (Training Manikin - Child) standing in front of a gray rectangular backdrop. In the center of the room, there is a box labeled 'AED'. At the bottom center, there is a label 'メインモニター' (Main Monitor) with a line pointing to a small rectangular button on the bottom wall.

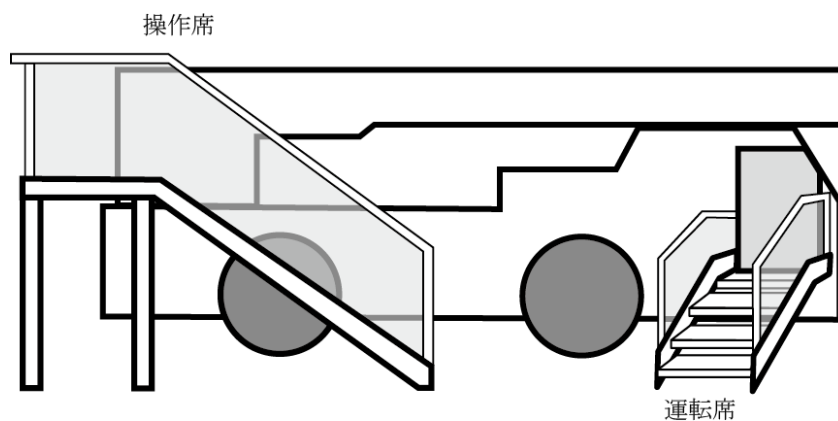
自由に体験ができる。

心肺蘇生・AEDの使い方は解説映像で確認することができる。



9 はしご車に乗ってみよう

(1) レイアウト



(2) 体験方法

自由に体験ができる。

(3) 案内手順

- ① 展示物に関する説明が掲示されている。

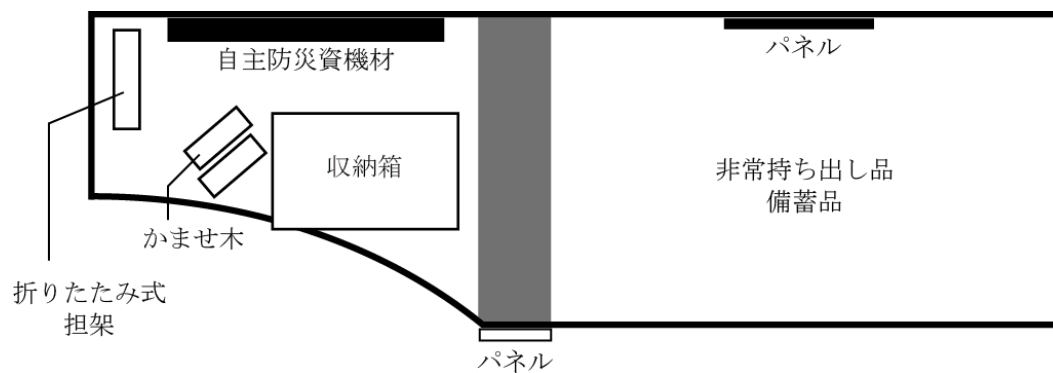


- ② ミニ防火衣（サイズ：100、110、120、130 cm）、防火衣（S、M、L）及び防火ヘルメットを自由に着装することができる。



10 防災グッズウィンドー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

自由に見学ができる。

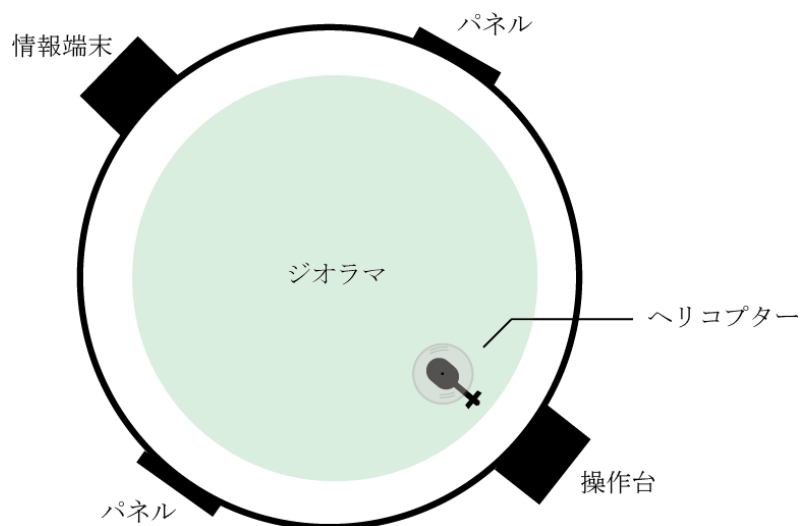
(3) 案内手順

展示物に関する説明が掲示されている。



11 防災シティ札幌

(1) レイアウト



(2) 体験方法

- ① 自由に体験ができる。
- ② ヘリコプター模型を操作することができる。

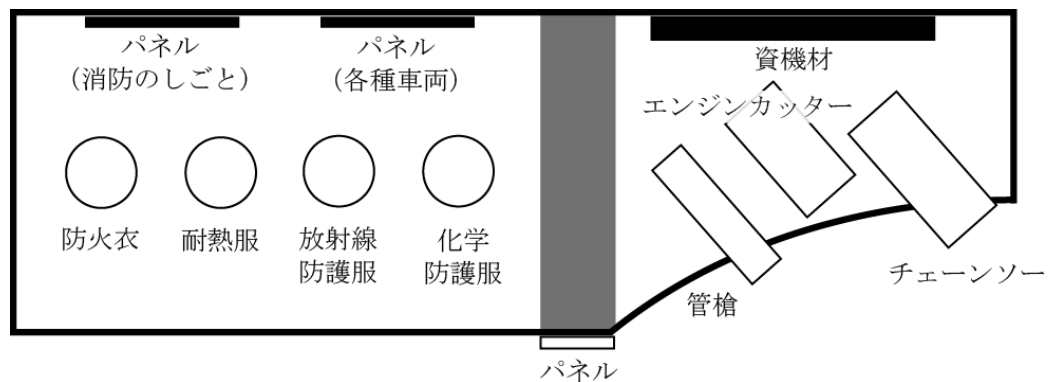
(3) 案内手順

展示物に関する説明が掲示されている。



12 消防のしごと

(1) レイアウト



(2) 体験方法

自由に見学ができる。

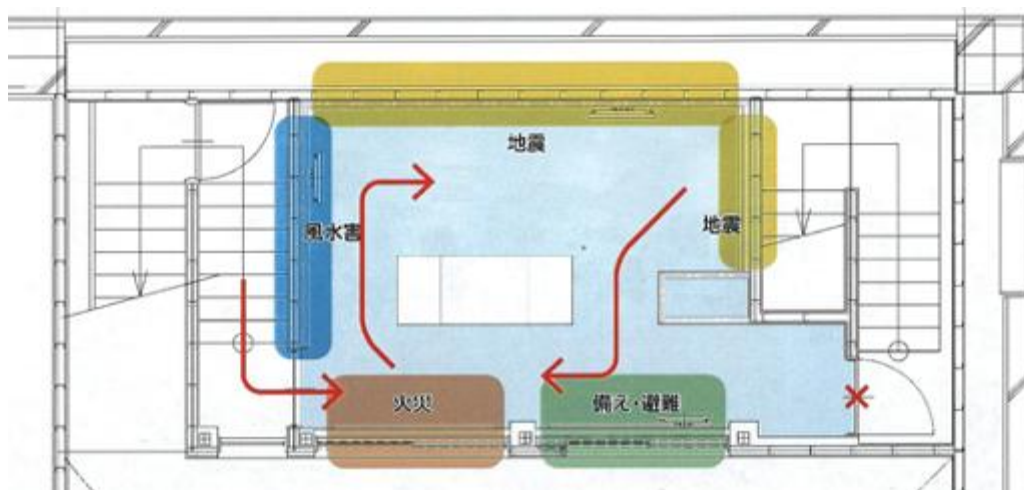
(3) 案内手順

展示物に関する説明が掲示されている。



13 学習コーナー

(1) レイアウト



(2) 体験方法

自由に見学ができる。

(3) 案内手順

煙避難体験コーナーの左側の階段から2階に誘導する。



2階の学習コーナーには、①「火災から身を守る」、②「風水害から火を守る」、③「地震発生！まちはどうなる？」、④「地震がおきたら」、⑤「災害に備える」等のパネル資料の掲示及び災害用段ボールベットが展示されている。

[illegible]

雨が降り続いたら

継続的に気象情報を受信しよう

大雨が降ると、気象情報を受け取れずから、避難中に雨も止まらないうえ、避難行動が中断する恐れがあります。避難行動が中断しないよう、避難行動の継続に努めましょう。

※1 携帯用気象受信機

 1 携帯用気象受信機 1 携帯用気象受信機	 2 携帯用気象受信機 2 携帯用気象受信機	 3 携帯用気象受信機 3 携帯用気象受信機	 4 携帯用気象受信機 4 携帯用気象受信機	 5 携帯用気象受信機 5 携帯用気象受信機
--	--	--	--	--

※2 携帯用気象受信機

 6 携帯用気象受信機 6 携帯用気象受信機	 7 携帯用気象受信機 7 携帯用気象受信機	 8 携帯用気象受信機 8 携帯用気象受信機	 9 携帯用気象受信機 9 携帯用気象受信機	 10 携帯用気象受信機 10 携帯用気象受信機
--	--	--	--	--

※3 携帯用気象受信機

 11 携帯用気象受信機 11 携帯用気象受信機	 12 携帯用気象受信機 12 携帯用気象受信機	 13 携帯用気象受信機 13 携帯用気象受信機	 14 携帯用気象受信機 14 携帯用気象受信機	 15 携帯用気象受信機 15 携帯用気象受信機
--	--	--	--	--

避難の心得

避難の心得

避難行動は、避難行動の継続に努めましょう。避難行動が中断しないよう、避難行動の継続に努めましょう。

※4 避難行動の継続

避難行動が中断しないよう、避難行動の継続に努めましょう。避難行動が中断しないよう、避難行動の継続に努めましょう。

※5 避難行動の継続

避難行動が中断しないよう、避難行動の継続に努めましょう。避難行動が中断しないよう、避難行動の継続に努めましょう。

土砂災害から身を守る

土砂災害から身を守る

土砂災害は、土砂災害の発生を予測し、避難行動の継続に努めましょう。土砂災害の発生を予測し、避難行動の継続に努めましょう。

※6 土砂災害の発生

土砂災害の発生を予測し、避難行動の継続に努めましょう。土砂災害の発生を予測し、避難行動の継続に努めましょう。

※7 土砂災害の発生

土砂災害の発生を予測し、避難行動の継続に努めましょう。土砂災害の発生を予測し、避難行動の継続に努めましょう。

③ 地震発生！まちはどうなる？

ア 壁面



イ 壁面めくりパネル



ウ 壁面吹き出しパネル

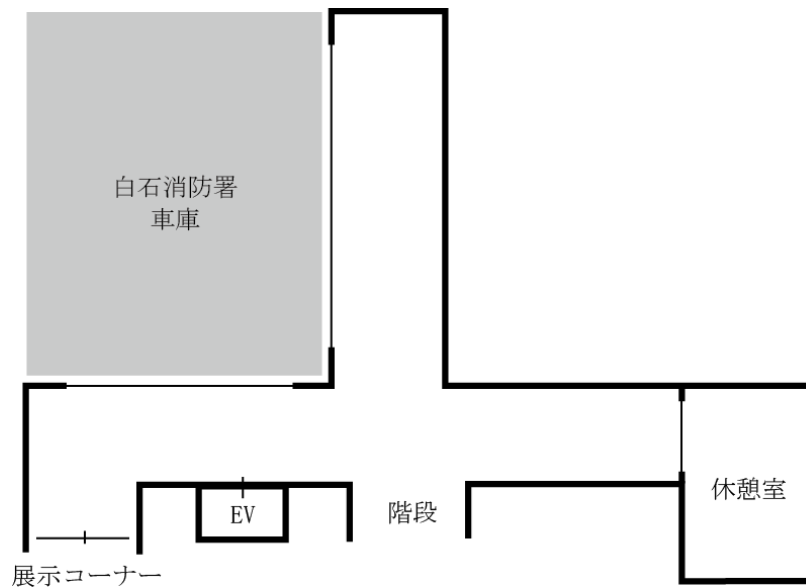






14 その他（白石消防署の車両見学）

(1) レイアウト



(2) 体験方法

自由に見学ができる。



■ 各展示施設の質疑応答

施設、防災、火災、消防のしごと等の多種多様な質問が寄せられる。
関係機関等に確認し、最新の状況を伝える。

1 体験コーナーについて

地震体験コーナーの機械の揺れ幅は？

最大 60 cm くらい横に動いている。

2 センターについて

(1) どうしてこのような施設をつくったのか？

札幌市は、大きな災害が発生することが少なく、札幌市民は他の都市に比べて、防災意識が低いといわれている。

そのため、なかなか体験のできない地震や火事など、災害の模擬体験をとおして、災害発生時の正しい基本行動を身につけることができる体験型施設として当施設はつくられた。

(2) 1 番人気の体験は？

すべての体験コーナーが人気であるが、はしご車に乗る体験は年齢にかかわらず人気が高い。

防災センターの入口に展示しているはしご車は、2002 年（平成 14 年）まで札幌市の清田消防署で実際に使われていた本物のはしご車である。

また、消防の活動服を着て運転席に乗り、写真を撮ることができる。

(3) お客様の中で一番たくさん来る年代は？

一番多い年代は、大人（19～65 歳）である。

次に多い年代は、小学生である。

その他にも、保育園や幼稚園の園児、中学生、高校生、大学生、高齢者など、様々な年代が来館されている。

(4) 防災センターには、1 日に何人くらいの人に来るのか？

1 日平均にすると約 180 人である。（年間約 6 万 5 千人/359 日）

過去最多で 1 日約 1,000 人以上が来館した。

(5) 1 年に何人くらいの来場者がいるのか？

年間約 6 万 5 千人が来館している。

(6) どのような仕事をしているのか？

地震や火災発生時の基本行動や対処法について、また災害の経験談を伝えている。

来館された方が、災害に遭遇した際に、災害時の正しい基本行動がとれるように、様々な情報を的確に伝えるよう日々心がけている。

(7) 入口にあるはしご車は実際に使っていたのか？

2002 年（平成 14 年）まで清田消防署で使われていた 30m 級のはしご車である。

(8) 札幌市民防災センターは、なぜ消防署の隣にあるのか？

白石消防署が老朽化したため、2003 年（平成 15 年）に再建設することとなった。

その際、地下鉄駅から近く、南郷通りという大きな通りに面した現所在地に、白石消防署とともに市民防災センターの建設も一緒に行うこととなった。

(9) 建設費用はいくらかかったか？

建設費用は白石消防署も含めて、24 億 8 千万円である。

(10) どのようにしてはしご車を設置したのか？

はしご車を入れる為、特別な搬入口をつくり、そこから中に入れた。
（正面入り口から見て左側）

そして、展示しているはしご車は、平行移動もできる特性を持っているため、搬入した後、角度を調整し設置した。

(11) 防災センターは地震や火災に耐えられるのか？

地震においては、多くの人が集まる施設であるため通常の建物（マンション・ビル）の約 1.5 倍の耐震強度がある。

耐えられる震度はおよそ 7 である。

火災については、耐火構造であるが、火災を起こさないよう様々な配慮をしている。

(12) 防災センターの体験コーナーの種類は？

様々な体験コーナーがある。

2002 年（平成 14 年）まで実際に使われていたはしご車の運転席に乗ることができるコーナーや 3D の映画を見る体験コーナーがある。

また地震体験、消火器の使い方を学ぶことができる体験もある。

この他にも、煙の中を安全に逃げる練習をする煙避難体験や暴風体験、救急体験がある。

(13) 防災センターの面積は？

防災センターの面積は、約 540 m²である。

(14) 施設の中で体験するもの以外で特徴的なことは何か？

隣の白石消防署の車庫を 2 階から見るができる。
実際の消防車の出動の様子などを 2 階から見学できる。

(15) 今までの来館者数は？

2018 年には、総来館者数 100 万人を突破した。
年間来館者数の過去最高は、平成 25 年度の 88,403 人である。

来館者数	達成日
20 万人	2006 年（平成 18 年） 9 月 21 日
30 万人	2008 年（平成 20 年） 6 月 15 日
40 万人	2009 年（平成 21 年） 12 月 2 日
50 万人	2011 年（平成 23 年） 6 月 26 日
60 万人	2012 年（平成 24 年） 10 月 28 日
70 万人	2013 年（平成 25 年） 12 月 8 日
80 万人	2015 年（平成 27 年） 7 月 5 日
90 万人	2016 年（平成 28 年） 11 月 1 日
100 万人	2018 年（平成 30 年） 6 月 19 日

(16) 防災センターのはしご車は、いつ納車されたか？

1987 年（昭和 62 年）12 月である。
車両の左前方に納車日が記載されている。

(17) はしご車の無線交信は、どこにつながっているのか？

防災センターに展示されているはしご車は、どこにも繋がっていない。
通常は指令センターと各消防署に繋がっている。

(18) 自主防災資機材はどのようなものが何種類くらいあるのか？

シャベルやハンマー、折りたたみ式担架など 14 種類の資機材を展示している。

【活動資機材の助成制度】

札幌市では、自主防災活動を支援するため、消火、救出、救護活動に必要な資機材のうち、基本的なものをセットにして、活動組織などを整備した町内会を対象に、1997 年（平成 9 年度）から計画的に助成している。

【資機材の内容（1 セット）】

消火活動用	・組立式水槽 ・モンキーレンチ（消火栓開閉用） ・消火用バケツ
救助活動用	・のこぎり ・おの ・ハンマー ・金てこ ・シャベル ・かませ木 ・ロープ ・ジャッキ ・折りたたみ式担架
救護活動用	・救急セット
その他	・ヘルメット ・収納箱